

天皇陛下岡本硝子御視察について

岡本硝子株式会社
取締役開発グループ担当

菊 月 康 二

His Majesty the Emperor visited OKAMOTO GLASS

Koji Kikuzuki

Reserch & Development Group, Okamoto Glass Co., Ltd.

1. はじめに

7月5日午後3時、予定の時間より7分遅れで白バイがゆっくりと会社の門から入ってきたとき、天皇陛下に御説明するのは社長であるのに、頭のなかで説明の段取りをもう一度繰り返していた。普段どおりの会社の姿を見ていただくのが御視察の趣旨であることは、通産省中小企業庁や宮内庁や警察関係の方々に何度も説明をいただいたにもかかわらず、目いっぱい整理と整備をした工場を最大限アピールしたいとの気持ちを抑えることができなかった。

陛下が通常はナンバープレートがついているところと、ドアのところに大きな菊の御紋章がついたセンチュリーから下りられてにこやかに手を振られたあと、お迎えの挨拶をするときには真剣なお顔になり、鋭い御質問があるかもしれないとのアドバイスが現実味を帯びてきてすっかり緊張して練習どおりの挨拶ができなかった（ような気がする）。

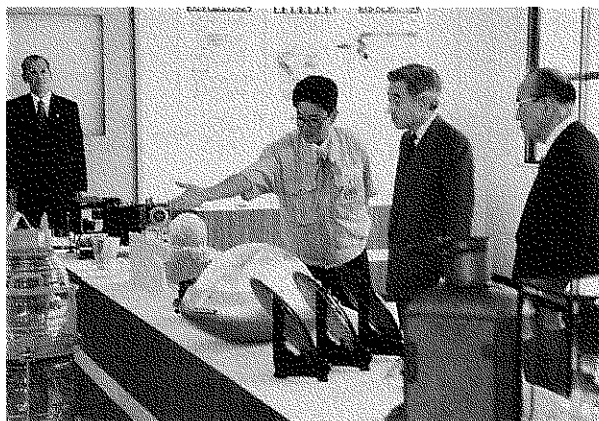
2. 御 視 察

陛下の産業視察は年2回程度（宮内庁のホームページをみると）のようであるが、当社のような中小企業御視察は3年前に東京大田区の工場御視察以来とのことであり、当日は同じ柏市の東葛テクノプラザを約1時間御視察された後、当社へおいでいただく予定であった。

岡本硝子の御視察は、創業前から現在までのガラスを御覧いただくことによって、会社の沿革と概要の御説明を行うことから始まった。創業前に現社長の曾祖父が作ったコップは、菊の紋章入りであった為か、陛下はじっと御覧になっておられた。また最近のメイン商品である結晶化ガラスの反射鏡やその加工品には、特に使い道や効果などを鋭く質問され、学者でもある陛下の一面がうかがえた。

工場内の御視察は、あまり例のないことのようにであるらしいが、いつものお客様と同様帽子とイヤホンをつけていただいた。工場の検査加工ラインでは加工の必要性や検査の困難さを説明したが、カット工程では職人さんの後ろまで廻りこんで、手つきやガラスの動かし方を長い間御覧になられた。

成型現場では、職人さんとロボットによるガ



ラスの巻き取り工程を比較しながら御覧いただいたが、ガラス巻取りロボットの開発においては、職人さんの動きをまねてプログラム化したとの説明にはすこし驚いておられた様子だった。また、となりでは人工吹きのガラスグローブの成型が行われていたが、熱いガラスを体の近くで扱いながら少しずつ膨らませ、形作っていく様子を御覧いただいた。この現場は他の成型と異なり比較的多人数で作業するため、人間と熱いガラスが交錯するように思われたのか、けがをすることはないのか御心配いただいた。

最後の光学ガラスの検査工程では、顕微鏡やレーザー、CCD カメラなどを駆使して全数検査する工程であるが、目で見てわからないような表面の粗さやカーブの乱れを検出する方法には特に御関心を示され、作業員にいろいろとお聞きになられた。

各工程の作業場では、あまり近くまではいけ

ないにしても、最大限作業員のそばまでお近づきになられ、できるかぎりお声をかけられ、また作業員が作業の合間にそれぞれが挨拶をするたび、一々帽子を取って御挨拶を返されたことには大変恐縮した。

3. おわりに

今回の御視察に当たり、当社社員の家族とお取引先の方にも声をかけて、お迎えとお見送りをしたが、立ち止まってのお声かけも何度かあり、それぞれが感動した1時間であった。

お見送りの際、お車(御料車というそうだが)にこやかに乗り込まれた後、ドアが閉められるとそのドアの菊の紋章がずいぶん大きいなあ、などと不謹慎なことを思いつつ、無事御視察を終えられたことで、頭に上っていた血が戻っていくような感覚をおぼえた。